

北海道合鴨水稲会

水かき通信

全国大会への準備始まる！！

大窪 宗磨

去る8月9日、北海道大学にて全国合鴨フォーラム北海道大会(以下、北海道大会と略す)のための準備委員会を開催しました。農繁期の最中の参加者は、浅野氏(道北ブロック)、大原氏、折坂氏、川本氏(道央ブロック)、高嶋氏、築城氏(道南ブロック)、酒井氏、木村氏、坂本氏、大窪(北大事務局)の計10名でした。

今回、準備委員会で話し合われた内容は、1)全国合鴨フォーラム岩手大会(以下、岩手大会と略す)の進捗状況、2)開催地選定、3)実行委員会組織図及び役割分担、4)今後のスケジュール、以上4点でした。

1) 岩手大会の準備着実に進む！

2000年1月22-23日に行われる予定の岩手大会の準備課程を視察するため、4月に岩手県に当会が派遣した浅野、木村、坂本の計3名から報告がありました。岩手大会の準備は、会場・宿泊施設、具体的内容も概ね決まり、開催へと向け着実に進んでいます。

2) 開催地は、札幌市に決定！！

北海道大会の開催地案として、札幌市と旭川市が候補地としてあげられ、議論の末札幌市と決定しました。決定理由は以下のとおりです。

- (1)交通アクセスの利便性
- (2)北海道合鴨水稲会の会員の所在が、北海道において「点と点を結ぶ」ようにあり、その点を結ぶ線の交差するところに札幌市がある。
- (3)現在、合鴨水稲会会員によって生産された合鴨米の最大消費地であること。
- (4)有機農産物の潜在的消費者の多数の存在が、札幌市の人口から類推される。
- (5)札幌市にあるマスコミの多様性が、大会の広報面で有効に働く可能性がある。

3) 実行委員会組織図及び役割分担

現段階において、実行委員の構成は北海道合鴨水稲会の会員が中心とな

って行って行く予定です。実行委員長に三島徳三北海道大学教授、副実行委員長に浅野晃彦氏を立案しました。そして、総務・管理/経理・会計が道央ブロック、会場・宿泊を道南ブロック、フォーラム企画を道北ブロックが担当することにして、大会準備を進行していくことにしました。

4) 今後のスケジュール

10月中旬に第二回目の準備委員会を開催する予定です。それまで、各ブロックの準備委員を中心にブロック単位で準備を行っていく方針です。決定事項は、水かき通信等を使って連絡する予定ですが、北海道大会をこのようにしてはどうかといった案がありました

ら、この通信のページに記載した準備委員に連絡してください。

北海道合鴨水稲会の特徴とも言えますが、各会員の所在地が離れているため連絡のつきにくさ、農繁期に大会準備のための時間を確保しなければならないことも今後予想されます。

しかし、協力しあい北海道大会を成功することで、合鴨水稲同時作が北海道の生産者・消費者に広くアピールすることができ、益々の合鴨水稲同時作の発展が期待できます。今まさに、北海道の生産者・消費者そして全国からも北海道合鴨水稲同時作が試されています。

(北海道大学大学院農学研究科)

第五回圃場見学会

坂本 雄紀

去る7月11・12日両日に、北海道合鴨水稲会恒例行事の圃場見学会が行われました。圃場見学会も5回目を迎え、今回は真っ黒に焼けた農家の方々、冬のフォーラムでパネリストとして参加された給食センターの竹内明子さん、日本農業新聞の川島豪紀さん、中富良野町の太田さんの農場で以前実習していた後藤さん、またハンガリーからの留学生ゲルゲリー君をはじめ北海道大学の学生10名を含む総勢39名が、今回の見学会圃場である折坂農場に集合しまし

た。

照付ける太陽とあふれんばかりの熱気の中、「折坂ファーム」の手造り看板の下で、当会代表の浅野さんによる開会のあいさつがなされ、そこで全国大会が近く北海道で開催されることや、最近北海道新聞などで取り上げられた今橋さんのハーブ農法なども紹介されました。

それから折坂さんの案内で農場を見学させていただきました。その際にもたくさんの質問が飛び交い、参加者の熱意が伝わってきました。その後納

屋においての意見の交換が行われました。そこでは鴨の雛の購入時期や田圃に放す時期はいつが良いのか、電牧の位置は畦と田ではどちらが良いのか、電牧のパルス間隔は可変可能かなどといった生育過程における技術的な質問から、田圃から取り上げた後の合鴨の処理方法や、鴨肉の需要動向などに関する意見も多く出ました。また、6月27日の北海道新聞の一面を飾った今橋さんが、ハーブ水田の話をされ、ミントによってカメムシの好むイネ科雑草が駆逐され、水際のイネ科雑草もなくなり、畦草刈りが楽になることや、ハーブの種類による効果の違いなどを紹介されました。



最後に世話人会からの報告として、合鴨の屠殺・販売の際には必ず処理場を通すことや、合鴨面積と数量に差異があるとの指摘、全国大会北海道開催の件や、会員農家の実習生受け入れ制

度の導入などが話されました。計8人の大学生から応募があり、事務局の調整で受入先が決まったところもあります。今後このような当会を通して都市と農村との交流の輪が広がるのが期待できそうです。

その日の夜は、地元の鶴沼公園のキャンプ場での焼き肉パーティーが行われました。これが楽しみで参加する人もいるのではないのでしょうか。当会事務局を担う宮入さん、お相手の川崎さん二人による結婚報告、また同事務局の酒井さんも電撃的結婚宣言なども宴会を大いに盛り上げ、途中学生時代の校歌（軽やかな振り付けもついて）を披露していただきました。話は尽きず深夜2時まで飲みつづけた人もおりましたが、皆無事にさわやかな朝を迎えられました。もちろん、例の如く宿酔いで苦しむ方はおりましたが。

二日目は、朝食を今橋さんの圃場でとることとなり、予定外に噂のハーブ水田を見学することになりました。畦には、ハーブが広がり、水田は緑一色に広がる見事なものでした。やはり、カメムシの被害もなく、合鴨くんのがんばりでしょうか、ドロオイ虫による目立った被害はありませんでした。

その後道立中央農試の職員の方に話を伺いました。

薩摩鴨の除草能力に関する実験を、浦臼、美唄、穂別の三圃場で実施し、結論として反当たり15羽の放飼羽数が良いのではということでした。その他にも、ポット密度による生育の違いや、耐冷性の研究、打ち込み式代掻き

同時直播機、冷害気象実験ドームなど興味深い話をされ、大変勉強になりました。また近年米の食味を判定するのに機械が導入される時代ではあるが、その機械が示す数値の意味を説明され、蛋白含量によってある程度の食味傾向は出せるにしても、それ以外の要因が多分に関係していると思われ、さらなる研究の余地があることを述べられました。



また、主に病害虫の話をしていただき、その中で合鴨水稲同時作がクリーンな防除法として効果があることを認める反面、合鴨を放すことにより、害虫以外のいろいろな虫を食べ、水際の生き物の生態系を破壊し、今までの水田とは違うものになりつつあるのではないかという指摘もいただきました。クリーン農法として合鴨農法が注目され始めたということ、参加者のみなさんは感じられたのではないのでしょうか。一方、合鴨水稲同時作を行っていくうえで、さらに水田が命の根っこであることにもつながる、このご指摘は心に留めておかなければな

らないことだと思われま

らな

今回で5回目を数え、圃場見学会にも多くの生産者以外の参加者が増えてきており、見学会自体の意義も今までの合鴨農法のプロデューサー同士の勉強会という側面の他に、農業のおもしろさ・大切さを、今をささえる生産者と21世紀の潜在的な生産者・消費者である学生と語り合うという側面もあったと思います。今後は消費者も交えた交流会にするべきではないでしょうか。今後、当会の行事には、合鴨水稲同時作に少しでも関心がある人を参加してもらおうような姿勢が必要であると思います。合鴨米が作られる過程、合鴨が圃場で泳いでいるところを間近に見て、草取りを一度は経験すると日常食べている米もまた違ったものに見えてきたりして…。



そういう意味でも、農繁期に一度、このような形で集まる機会の重要性を再確認すると同時に来年の圃場見学会が今から楽しみでもあります。

(北海道大学農学部4年生)

豊かな田んぼを目指して

松倉 広

合鴨を知る

私は兼業農家として農業にたずさわっています。私の長男は農業高校卒業後、調理師資格を取得し、十年間岡山、大阪、群馬、茨城の各県で和食を修行し、結婚後農業後継者として農家を継ぎ今日に至っています。

現在の経営規模は水田5ha(うち休耕2ha)、畑6ha、山林7haで、自宅周辺は文教地区(函館大学、高専、小中学校等)となっており、学校の付近が宅地化され野菜等についてはクリーンなものに対する関心度が高い地区で、朝夕に野菜や米などを買いに訪れます。

生産は息子、販売は家内が担当し、私はアドバイザーみたいなもので耕作地の状況を見回り、これからの農業経営について提案する立場として老骨に鞭を打っております。

合鴨導入の直接の動機は、札幌で勤務している次男の子供(孫)がアトピーに患っており、嫁が食事の吟味に苦労しておりましたので、可愛い孫に薬害のない食品を提供したいものと思いい家内共々願ったのであります。

函館市農林課を通じて農業普及所

より七飯町の築城氏を紹介いただき、早速訪問し合鴨導入の具体的な準備すべき道具、合鴨の手配、育雛の方法などのご伝授をいただき、時期としては遅かったのですが、テストとして6月10日に雛が到着。30羽を台所で育雛器で育てる経験をいたしました。不馴れなため5羽を死なせましたが、水田1反7畝に25羽を入れ、朝夕に息子が片道7キロの水田に餌を持って通っております。

圃場見学会にて

築城氏からいただいたデータにより北海道合鴨水稲会のあることを知り早速入会、第5回の圃場見学会のご案内をいただき札幌にある私の会社から見学地「折坂農場」に向け、地図を頼りに出発し早めに到着、我が家の鴨より大きく育った合鴨が大らかに動き回っている様子を眺め、水稲と合鴨の相性のよさを実感し、導入に当たっては家族ぐるみの合鴨に対する理解、愛情、細心の観察・注意などが必要なことを認識いたしました。また、折坂氏宅の池の蓮の華麗な花、自噴量の豊かな湧き水などを眺め、その環境の素晴らしさをとても羨ましく思い

ました。



また北大の学生さんが折坂宅に泊まり込んで農家の実体験と理論構想に努め、卒論の資としている姿にも接し、きっと素晴らしい卒論ができるものと期待を持っております。

圃場見学後の鶴沼公園キャンプ場での懇親会では、世話人の方々、学生さん達のお世話で、焼き肉、鮭のメインディッシュにビール、ワイン、お酒などのたくさんのごちそうを満喫いたしました。参加した方々の自己紹介もあり先輩各位の貴重な経験談を伺いました。

滝川試験場家禽課の大原氏から合鴨の処分はもちろん、販売やプレゼントに当たっても「ライセンス」の取得者が処理し、適切な規制に従っての安全検査を行わなければならないとの

ご注意があり、私共の扱う食物は安全が大切であり、動植物の区別なく常に注意して管理すべきことを再認識いたしました。

懇談の中で先輩の経験として、鴨の皮下に3ミリ位脂肪が乗ったときが一番処理しやすく美味しいこと、ハーブの育て方など話題がたくさんありました。特にハーブについては素人の私には何のことかわかりませんでした。翌日道立中央試験場を訪問する途中、今橋氏の圃場で整然とした畦に植えられたハッカを見て、これがハーブのことであったかと理解いたしました。また、合鴨のドロオイムシ駆除能力について隣接水田との比較により実感することが出来ました。

また、当会代表の浅野氏からは今後の農業の方向として堆肥の活用、尿からのメタンガスの活用による熱源化などの興味深いテーマの提示があり、クリーンエネルギーについての考え方を与えられること大でありました。

続いて合鴨の天敵であるカラス等に対しては水面の上にテグスを数カ所から放射状に張ることが経済的かつ効果的であることも圃場見学の折に教えていただきました。

道立中央試験場では二人の技師さんから冷害の研究、害虫、イモチ病の発生についての研究を伺い、これらの災害発生について早期に農家に伝達

する大切な業務を負っておられることを再認しました。また水稲と合鴨との関係について研究者として、水中昆虫の存在や自然環境維持には万能な方策がありえないとの提言もあり、いままで私が考えてもみなかった知識を得たことは望外の喜びであります。



今後の抱負

来年は稲作に合鴨と水草、ドジョウの3点セットを実施したいとドジョウの養殖試験をおこなっております。函館は水産加工が盛んで水産廃棄物の処理に苦勞しておりますが、その廃棄物をドジョウの養殖に利用すべく、加工業者が研究に着手しております。

また社会福祉関連で身体障害者の会がミミズの育成に取り組んでおりますが、ミミズの排泄物が園芸土としてハウス栽培に欠かせない需要があ

り、クリーンな土地改良剤として実績がありますが、私は水稲、合鴨、水草(アゾラ)、ドジョウの育成を農産物、畜産物、水産物の生産に結合させ一定面積の中で、あくまでクリーンな生物循環により食物が有機的な共生、生産される農業を確立させ、併せて収益アップを行えるものと考えております。

今年私は函館市農林課と市農協の支援を仰いで、市民菜園を開設いたしました。これは市民の皆様にも農業を知ってもらい、その生産物に関心を持っていただき、わたしども農業者と良好なコミュニケーションを高めたいと願っているものです。息子には技術的指導を担当させておりますが、本人も人に教えることから勉強しなければならないことを自覚している様子です。

この7月には北早生ソバを植え付けました。合鴨をダシにして参加された市民の方々と手打ちソバを楽しみたいと考えております。

私は合鴨水稲会入会により、今後の新しい農業について希望に満ちたテーマをたくさん見つけることが出来たと感謝いたしております。新人の私に対し先輩各位の暖かいアドバイスをお願い申し上げます。

(松倉農園)

□全国合鴨フォーラム北海道大会準備委員

(TEL/FAX)

○道央ブロック

大原(試験場)

(0125-28-2111/0125-28-2165)

今橋(01266-7-2525/01266-7-2525)

折坂(0125-67-3546/0125-67-3546)

川本(0164-34-3714/0164-34-3714)

○道北ブロック

浅野(0166-72-2011/0166-72-2011)

太田(0167-44-3643/0167-44-3983)

鈴木(有限会社当麻グリーンライフ)

(0166-84-2044/0166-84-5117)

○道南ブロック

高嶋(011-373-0693/011-373-0693)

谷口(01332-6-2460/01332-6-2460)

築城(0138-65-5249/0138-65-5249)

○北大事務局

窓口:大窪

(090-2692-7659/011-736-8633)

□北海道合鴨水稲会入会案内

当会の主な活動は、総会及びフォーラム、圃場見学会、『水かき通信』の発行、全国合鴨フォーラムへの会員派遣等です。入会されますと、行事の案内状、『水かき通信』が届きます。入会手続きは、当会事務局に連絡して頂くと入会申込書を送りますので、それに記入され送り返して頂き、年会費 6,000 円を納入して頂くと入会できます。

□会費納入のお願い

99年度の会費 6,000 円を月末までに以下の郵便振替口座に振り込んで下さい。同封した郵便振替払込書を使われますと、手数料はかかりません。

口座番号:02700-3-38241

加入者名:北海道合鴨水稲会

払込払出局:札幌北七条郵便局

編集後記

□今回も編集を何とか、仕上げた。全国大会の準備も動き出し、いよいよといった感じ。来年の盛岡大会を参考にして、北海道らしい大会にしたいと思います。あと、卒論もがんばらないと。(木村)

□もうすぐ、稲刈りが始まる。今年の米は、どうだろう。田んぼで働けば働くほど、米の味が深まるようにも思う。今年は、昨年よりも、ちよっぴりおいしい米が食べられそう。

(坂本)

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第9号

1999年9月13日発行

発行:北海道合鴨水稲会

(連絡先)北海道合鴨水稲会事務局

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学大学農学研究科

農業経済学講座農業市場学分野

大窪 宗磨・木村 篤・坂本 雄紀

TEL:011-706-4941

FAX:011-736-8633